

評価をどうする？

Q 評価はどのようにすればいいの？

A 子どもの良さを見つけて励まし、成長を促す評価をします

道徳は相対評価や絶対評価ではありません。個人内評価です。子どもたち一人一人の良さを見つけて書き、その子を励ます評価をします。その子どもが課題とすることや否定的なことは書かないようにしましょう。長期的な視点で子どもたちの成長過程を見るためには、大くりな評価が必要です。1、2学期の通知表には具体的に記載し、3学期はその子の1年間の成長を踏まえ、大くりな評価をすれば、指導要録に生かすことができるでしょう。



あ と が き

教師と子どもたちとの信頼関係、そして教師の温かな学級づくりがあってこそ、道徳科の授業が成り立ちます。そのためには、まず教師自身が楽しいと思える道徳の授業をすることを目指しましょう。結果的に子どもたちも楽しく学ぶことにつながります。どんなに素晴らしい授業をしたとしても、子どもたちは急に変わることはないかもしれません。しかし、子どもたちの道徳性が少しずつ育まれていく過程を温かく長い目で見守る必要があるのです。さまざまな授業法や表現方法を開発する余地がたくさんある道徳科は、チャレンジ精神あふれる夢のある教科なのです。



*この冊子は、教科化が始まったあとに各地域の小学校の先生方から多く寄せられた疑問や質問を基に構成しています。

学研 学校教育ネット Q 検索



小学校道徳科Q&A ●発行人…甲原洋 ●編集人…麻生征宏 ●発行所…株式会社Gakken 〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8

■本資料に関するお問い合わせは、右記まで。内容については、TEL 03-6431-1565(編集) それ以外のことは、TEL 03-6431-1151(営業) ■本資料の無断転載、複製、複写(コピー)、翻訳を禁じます。

9300008801

よくわかる!

小学校道徳

Q & A



*この資料は、(一社)教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則って作成しています。

はじめに

子どもたちが目を輝かせ、生き生きと学んでいく道徳授業。多様な考えを交流し、共に練り上げ、今後の生き方に役立つ道徳授業。そんな価値がある授業を展開していきたい。このブックレットは、こうした先生方の願いや疑問に寄り添い、授業を一層、充実させることを目指して制作しました。子どもたちと共に、魅力ある楽しい道徳授業の実現に取り組んでいきましょう。

道徳授業の流れ

「導入」→「展開」→「終末」を基本に授業を進めます。ただし、この流れを固定化、形式化させる必要はありません。まず教材を読んで主題に関わる共通の認識を持たせ、教材によっては学習課題を明確にしてから話し合います。子どもたちが自分の考えを明確にし、友達の考えを認めるなかで協働的に学びを深めていく授業が理想です。一つの答えにまとめる必要はありません。子どもたちの話し合いや気付きのプロセスを充実させましょう。



多様な意見を出し合い、話し合うことが大切です。

導入

- 主題にかかわる問題意識を持たせる
- 教材の内容に興味や関心を持たせる
- 学習への雰囲気をつくる

展開

- 教材を効果的に提示する
- 子どもたちの実態と教材の特質を押さえた発問をする
- 子どもたちが考えを深める工夫をする

終末

- 学習を通して考えたことやわかったことを確認する
- 学んだことを心に留め、今後の生き方について考えるようにする

授業をどう作る？



考えを深められる授業展開とは？



考え方や価値観を押しつけるのではなく、話し合いや考えさせることを大切にする

大前提として、授業を行う前に、教師はねらいとする道徳的価値について十分に理解することが大切です。しかし、その授業で扱う道徳的価値、たとえば「親切、思いやり」といった内容項目の場合、子どもたちは「親切」や「思いやり」が大切であることは、教えられなくてもわかっています。価値観を押しつけるのではなく、ねらいに向かって、子どもたちの考えがより深まっていく展開を考える必要があります。教材の内容について子どもたちが自由な発想のもとで話し合い、自己との関わりの中でより深く考えながらねらいに近付いていくことこそ、道徳の授業の醍醐味があります。

親切は良いこと

言葉としての理解ではなく、根拠や意義の理解へ

なぜ親切にするのが良いかを考える



学習のしかたは、これまで行ってきた方法や考え方に基づいても構いませんし、問題解決的な学習や役割演技など表現活動を重視した学習など、新しい方法を試すのも良いでしょう。どの方法を選ぶにしろ大切なのは、教師が授業で扱う道徳的価値について、ねらいをしっかり定めておくことです。そして授業では、答えが一つではない道徳的な課題を子どもたちが考え、議論しながらねらいに迫ることを主眼に置きましょう。こうした授業を行うためにさまざまな方法を試す前向きな姿勢は大いに奨励されるべきです。



授業をどう作る？



効果的な発問は どのようにつくる？



子どもたちが自ら考え、話し合える
発問づくりを目指しましょう。

道徳の授業における発問は、子どもたちに考えさせ、対話させるためのものです。教師はあらかじめ、授業でねらいとする道徳的価値について、子どもたちがどのようなところにこだわりや疑問を持ち話し合いを深めていきたいと思うのか、子どもの視点に立った教材吟味をした上で、ねらいに迫る発問（中心発問）を考えます。この発問が契機となり、子どもたちがじっくり考え、十分な話し合いをし、新しい気付きや学びを得ることを目指します。話し合いの方向が異なる意見が出た場合は、その意見を認めながらも主題からぶれないようにしましょう。

こんな問いかけをしてみましょう

どういう理由で
そう思ったの？



考えの根拠を問い、
道徳的な判断力を養う

●●さんなら
どうしたと思う？



教材の登場人物が自分だったら
どう感じ、どう行動するかを問うことで、
道徳的な心情を想像させる

なぜ○○することが
大切なのかな？



教材で描かれる場面を手がかりに、
道徳的価値の意味を考えさせる

●●さんの
意見だけでいい？



学級全体にゆさぶりをかけて、
議論の活発化をねらう

こんな発問はNG!

- わかりきっていることや、決まりきったことを言わせる発問
- 教材に書かれている言葉や文が答えになる発問
- 教材の内容や登場人物の理解ばかりを求める発問

授業をどう作る？



効果的な板書とは？



子どもたちの思考を
サポートするためのツールと
考えましょう

道徳の授業は、主に話し合いによって成立するものです。板書はそれを補助するものと考えましょう。こと細かに教材のあらすじを書いたり、子どもたちの意見を羅列する必要はありません。また、主題を最初に書いてしまうと、価値観の押しつけにつながる場合があるので、提示するタイミングを工夫しましょう。縦書き、横書きを効果的に使い分けましょう。

板書を活かす工夫の例

中心部分をクローズアップし、対比的、構造的に示す

主人公の気持ちに焦点を当てて、その悩みや葛藤などを構造的に見せると、子どもたちの思考が整理しやすくなります。



教科書の
挿絵などを
活用する

意見の違いを類別化する

意見が分かれる場合などは、類別化して整理するとわかりやすくなります。子どもたちに、意見の合うところに付せんやネームカードをはらせるなど板書に参加させると授業に活気が出るでしょう。

話し合いは子どもたちが相互に多様な考えを学び合い、深める活動です。考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に行われるように工夫が必要です。効果的な板書で、考えの立場や気持ちを類別したり、心情グラフで子どもの考えを可視化したりすることで、話し合いを活性化させましょう。

授業をどう活性化する？

Q ICTを活用するには？

A 扱う題材やテーマに応じて
ICT機器のメリットを
生かさない手はありません！

文部科学省がリードする「GIGAスクール構想」のもと、児童1人1台のタブレット端末の確保と、学校内における高速大容量の通信ネットワークを整備する取り組みが進んでいます。道徳の授業こそICT機器を効果的に使うチャンスです。インターネットを利用することになるので、情報モラルを全員で共有しつつ、ICT機器のメリットを活かした授業で、子どもたちの学びを広く深くしていくことを目指しましょう。

ICTの活用例

導入 では…

簡単な質問に タブレット経由で回答させる

「はい/いいえ」「賛成/反対」といった、択一式の質問を投げかける際、タブレット経由なら子どもたちの本音の回答を集めることができます。集計ソフトで瞬時にグラフ化して、電子黒板で大きく見せることができます。子どもたちの意見や考えがすぐ視覚化されるので、一気に授業に引き込むことができます。テーマに関連した映像や写真をタイムリーに提供するとより効果的でしょう。

展開 では…

遠く離れた相手と 双方向のコミュニケーション

授業に応じて、学校外の専門家などをゲストティーチャーとして招いたり、他校の子どもたちと意見交換をしたりする場合、オンライン会議サービスなどを利用すれば、遠く離れた相手とコミュニケーションを取ることが可能です。

小グループを編成し 話し合いに生かす

タブレットを活用すれば、子どもたちが調べた内容を共有化できます。また、グループ内で話し合わせたり、多様な考えを電子黒板などで交流させたりすることもできます。子どもたちの授業参加をよりアクティブなものにしていきましょう。

終末 では…

授業の記録が容易で 振り返りが効果的に

授業で気付いたこと、学んだこと、課題だということなどを、子どもたちは各自、タブレットに記入、記録することができます。それらを累積することで、子どもたちは自分自身の考え方や物事に対する姿勢の変化を感じ取ることができるでしょう。さらに教師はそれらを集約し、子どもたちの評価や、家庭へのフィードバックなど、大いに活用することができます。



授業をどう発展させる？

Q 現代的課題に どう取り組む？

A 身近な問題と結びつけて
自分ごととして考えていく学習に
することが大切です。

SDGsやメディアリテラシー、多様性などの「現代的課題」に対応できる資質を育てるためには、教科横断的な視点が欠かせません。道徳の授業では「現代的課題」の解決手段を考えるよりは、そうした考えに至るまでの心のあり方(道徳性)に着目しましょう。道徳で学んだことは課題解決への動機付けとなり、他の教科と連携することで、より多面的・多角的に学びを深めていくことができるはずです。また、テーマに関わる複数の内容項目を関連付け、ユニットを構成して深めていくことも効果的です。

プラスチックごみの問題を扱う場合

社会では…

- プラごみはどこからやって来る？
- 近隣の川や海の実地調査
- プラごみ問題解決のための日本や世界の取り組み

理科では…

- プラごみは川や海的环境下にどんな影響を与えるの？
- マイクロプラスチックってどんなもの？

道徳では…

以下の観点などからグループで考えさせたり、意見を発表させたりする。

- 海鳥のお腹からごみが出てきたことについてどう感じたか？
- 自分はプラごみを出している？ 出していない？
- プラごみをなくすにはどのような思いや考えが必要かな？



連携

連携